令和４年度　初任者研修

授 業 実 践 研 究 テ ー マ 設 定 ・ 実 践 研 究 プ ラ ン

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 勤務校 |  | 氏名 |  |

１．授業実践研究のテーマ

|  |
| --- |
|  |

２．テーマ設定の理由・期待される効果など

|  |
| --- |
|  |

３．具体的な取組の内容や方法など

|  |
| --- |
|  |

メモ（研修当日のメモ欄として活用）

|  |
| --- |
|  |

授業実践研究テーマ設定について

初任者研修授業実践研究の流れ

「学び続ける教員」として授業実践のサイクルを身につけることを目的とする。

①自分の授業実践の実態と課題を把握し、児童・生徒の実態に応じたテーマを設定する。

　（※必ず管理職や指導教員と相談し決定すること。）

②テーマに向けた具体的な取り組みを決め、授業実践を行う。

③実践を積み重ねる中で振り返りを行う。

④実践をレポートにまとめ、省察を行う。

⑤他者に実践を語る中（クロスセッション）で、実践を捉え直し、新たな課題を設定する。

・授業実践研究は、初任者研修、２年目研修、３年目研修の柱である。

・重点的に研究していくテーマを設定して取り組んでいく。

・１年間かけて取り組めるテーマを設定する。

学校の研究主題がある場合、その主だと関連させたテーマにすると、学校で育てたい児童・生徒の姿と一致していく。

○どのようなテーマを設定するとよいか

・５月下旬No.114aで作成した「学習指導上の問題点・工夫点」を参考に、日々の“授業実践”の中から、テーマを設定する。

・大きなテーマだけだと具体的に何に取り組むのか見えにくいため、目標となる少し大きなテーマと具体的に取り組んでいくサブテーマを設定するとよい。

大きすぎるテーマの例：「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり

→具体的に何に取り組むのか見えないので、実践に深まりが見られない。

　レポートも実践の羅列だけになってしまう。

→具体的テーマを設定する

　　～子どもたちが意欲をもって取り組める発問と板書の工夫～

(過去の授業実践研究テーマ例)

・仲間とのかかわり合いの中で、自分の考えを生き生きと表現する子どもを育てる授業づくり

・焦点化、視覚化、共有化を意識した「わかる」授業づくり

・考える力を育てるための課題設定の工夫

・子どもが意欲をもって取り組みたくなる授業の工夫～国語科の実践を通して～

・見通しが持てる工夫を通した、学び合いが生まれる授業づくり

・学び合いを通してクラス全員が学習に参加できる授業づくり

・他者との学び合いで思考力を向上させる学習活動の工夫

・話すこと、聞くことに重点を置いた、伝え合う力を育てるための言語活動の工夫

・ユニバーサルの視点を取り入れた授業の工夫～焦点化を意識した授業づくり～